



令和4年度
福島小学校だより

ふくしま

第19号 10月31日
八女市立福島小学校
校長 安達 浩文

6年生の成長を感じる修学旅行でした

10月21日(金)~22日(土)にかけて6年生は修学旅行に行ってきた。新型コロナウイルス感染の状況によっては延期の可能性もあると考え、予備日を設定したり、延期した場合に発生するキャンセル料や旅行中に発熱した場合の保護者のお迎え等に対応するための保険にも加入したりしていましたが、それらを使うことなく実施することができ、ほっとしています。6年生の保護者の皆様には、ご家族を含めた感染対策等にご協力いただいたことに感謝申し上げます。

さて、修学旅行ですが・・・1日目は1・2組混合で構成した学習班で行動し、長崎市内の原爆資料館や平和公園、浦上天主堂、如己堂等を通して平和と戦争について考え、出島資料館や歴史文化博物館、グラバー園等を通して長崎の歴史や文化に触れました。佐世保市内のホテルに移動してから2日目のハウステンボスにかけては、学級ごとの活動班で行動しました。2日間とも素晴らしい好天に恵まれました。

しかし、すばらしかったのは天気だけではなくありませんでした。子どもたちは出発式、現地での平和集会や教師の指示など話をきちんと聴くことができ、見学地では自分の目で見て気付いたことを熱心にメモしていました。また、バスの中、ホテル、見学地では、時と場に応じたマナーもとれ落ち着いて行動できました。学習班と活動班の2種類のグループを使い分けての行動でしたが、大きなトラブルも無く、いろいろな友達と協働して目的を果たす力が育ってきています。一番良かった点は「時間を守る」という意識を持っていたことです。早め早めに集合ができたので、ハプニングが起こっても慌てることなく柔軟に対応することができました。同行したカメラマンの方からも「今年一番の修学旅行でした」と褒めていただきました。6年生の子どもたちの成長を感じた充実した2日間になりました。



「給食」という学校文化



左の写真は1年生の学級活動「のこさず食べよう」の授業の一コマです。栄養教諭もゲストティーチャーとして参加しました。まず、子どもたちは、日頃の給食の食べ方を振り返り、課題を見つけます。次に、クイズや栄養教諭の話を通して給食を作ることがいかに大変か、子どもたちの成長を考え、給食にはたくさんの栄養素がバランス良く組み込まれていること等を知りました。「好きな物ばかり食べない」「苦手な物ご飯と一緒に食べる」「嫌いな物から食べる」など最後に自分の給食の食べ方を見直しました。

上記にも少し触れていますが、給食には様々な工夫がなされています。毎回20種類程の食材と5種類以上の野菜が使われます。また、季節に合った旬の食材や地元の食材も使われます。さらに、沖縄、長崎、北海道、青森、山形など国内の様々な郷土料理やメキシコ、フランス、韓国、イタリア、中国、アメリカ、ロシアなど異国の料理も味わうことができます。海外の人たちは日本の給食の栄養価の高さ、バランスの良さ、安価さ、安全性に驚き、子どもたちが給食を通してマナーや衛生面について学んでいることに感心しています。給食は日本が誇る学校文化の一つです。1年生の授業を参観していて当たり前のように食べている「給食」のすばらしさについて改めて考えさせられました。向かい合って歓談しながら給食を食べる子どもたちの姿が一日も早く戻ってくることを願っています。

